

進化する同志社

奨励	大谷 實【おおや・みのる】
奨励者紹介	学校法人同志社総長

さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリアともう一人のマリアが、墓を見に行った。すると、大きな地震が起こった。主の天使が天から降って近寄り、石をわきへ転がし、その上に座ったのである。その姿は稲妻のように輝き、衣は雪のように白かった。番兵たちは、恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。天使は婦人たちに言った。「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだから、あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』確かに、あなたがたに伝えました。」婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った。すると、イエスが行く手に立っていて、「おはよう」と言われたので、婦人たちは近寄り、イエスの足を抱き、その前にひれ伏した。イエスは言われた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」

(マタイによる福音書 28章1―10節)

学校法人同志社

同志社は、約10年間アメリカに留学して、キリスト教の牧師・宣教師となって帰国した新島襄が、「教育こそ文明の基である」とする信念から、1875年に「同志社英学校」として建てた学校です。学校開設のときはわずか8名の生徒でありましたが、現在では、13の学部、2万7000人余りの学生を擁する同志社大学、また、5学部、6300人の学生を擁する同志社女子大学、さらに、4つの高等学校、4つの中学校、2つの小学校および一つの幼稚園、そしてインターナショナル・スクール、全部で14の学校があり、約4万2000人が学んでいる、文字通り一大総合学園となっています。

同志社という学校名は、「目的を一つにする同志の結社」という意味で付けられたものです。その目的とは、キリスト教を徳育の基本とする良心教育の実施です。良心が全身に満ちあふれた人間、一国の良心として社会で活躍できる人間を育てる、これが同志社のミッションであり、同志社建学の精神、同志社ブランドです。

同志社は、良心教育に欠かすことのできない教学の理念として、キリスト教主義・自由主義・国際主義の三つの原則を導き、幼稚園から大学までの一貫教育を実践してまいりました。本日は、その一つである国際主義に着目して、進化する同志社の現状を垣間見ることにしたいと思います。ここで、「進化」と申しましたのは、同質のものが年月を経ることによって、未分化のものが分化し、発展しつつあるという意味であります。

同志社の国際主義

国際主義とは、一般的には、国家相互間の協調を旨とし、世界の平和を目的とする原則をいいますが、私は、「『同志社の』国際主義」を、「外国の自然や歴史、文化を理解し、学術研究や学生同士の国際交流を盛んにする。そして、良心教育を世界に発信できる、『良心の充満した丈夫』として、国際舞台で活躍し、人類の繁栄および世界平和に貢献できる人物を養成する考え方」と理解しています。この原則に基づきまして、同志社では、国際主義教育委員会を設置し、各学校が委員を選出し、総長が委員長となりまして、国際交流プログラムの基本方針を検討し、実践するよう心がけています。

中学校・高等学校では、学校ごとに短期交換留学や国際交流イベントを実施しており、こうした事業は、国際化時代に即応して年々拡大しつつあります。特に、同志社の国際主義教育を発展・向上させることを主眼として設置された国際中学校・高等学校では、「真の国際人」の育成を目指して、独自の国際教育を実践しており、語学教育や国際研修および国際交流プログラムの充実に取り組んでいるところであります。

同志社小学校では、英語教育を率先して実施し、6年生の修学旅行は、アーモスト大学への訪問です。また、同志社幼稚園では、国際主義教育の一環として、英語クラブ「キッズ英語」を実施しています。なお、2011年には同志社国際学院を開設しました。その初等部は、正規の小学校として認可され、英語によるバイリンガル教育を実施するとともに、国際部は、インターナショナル・スクールとして、国際バカロレア機構により、今年3月に国際的な大学入学試験資格のためのDiploma Programが認可され、英語による授業が実施されています。

特色ある国際交流

一方、同志社大学での国際交流の特色は、外国の大学の研究・教育センターを誘致してきた点にあります。アメリカを代表する15の名門リベラルアーツ・カレッジで構成しておりますAKP同志社留学生センター、スタンフォード技術革新センターおよびチュービンゲン大学同志社日本語センター、さらにイギリスのシェフィールド大学日本センターなどがありまして、それぞれ日本語や日本文化などの教育を展開しています。各センターの提供科目の一部は、同志社大学の学生も聴講できるほか、留学生と共同で課外活動に参加することも可能であり、双方にとって貴重な体験となっているようであります。

外国人留学生の受け入れ機関としては、日本語・日本文化教育センターが注目されます。外国人留学生の日本語・日本文化教育を担う施設として設置されたこのセンターは、2009年4月から文科省によって、「指定日本語教育施設」に指定されました。私立大学では、他に四大学が指定されただけであります。これによって、外国人留学生の受け入れは大幅に拡充してまいりました。

学園のグローバル化

外国人留学生に関しては、2009年度の文部科学省国際化拠点整備事業（グローバル30）の採択が特に注目されます。これは、外国人留学の拠点校を採択し、年間2億から4億円程度の補助をするというのですが、国立大学7校・私立大学6校の一つとして、同志社大学も選ばれました。英語による授業を実施するなど、戦略的な国際連携を推進し、新たな国際化の取り組みができるようになりました。国際主義教育の転機となる画期的なものとして、大変有意義な事業と考えております。過日、大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業について中間評価結果が発表され、同志社は13校のトップであるS評価を受けたところであります。

一方、同志社ビジネススクールの「グローバルMBAプログラム」も注目に値します。2009年9月から、世界のトップクラスの教授を招聘し、すべての授業を英語で行っているものですが、京都で、世界水準のビジネス教育プログラムを実施するのは初めてであり、国際主義を踏まえたビジネス教育の成果が大いに期待されるところであります。すでに、中国や東南アジアなど多くの国からの留学生が来日しています。さらに、同年4月にはグローバル・スタディーズ研究科を、9月には「国際科学技術コース」を開設しています。

また、2011年には、幅広い教養と国際社会で貢献できる人材を育成する国際教育インスティテュート、さらに、国際社会のビジネス・文化交流や教育などの場で活躍できる人材を養成するためのグローバル・コミュニケーション学部が新設されました。なおこの学部は、英語ないし中国語の習得を目的として、外国への1年間の留学を義務付け、それぞれの言葉の運用能力を習得させようとするものであります。すでに同志社女子大学では、2007年に、1年生からほとんどの授業を英語で行う国際教養学科を学芸学部を設置して、海外認定大学へ1年間の留学を義務づける制度を実施しています。教養豊かな「同時通訳者」の養成が期待されているところであります。

良心教育の基礎としての国際主義

学校法人同志社における国際主義について、その現状の主な点をかい摘んでお話ししましたが、学園の国際化は、日本における教育・研究の趨勢（すうせい）として、今後一層推進されるものと予想されます。しかし、同志社の国際主義は、同志社ブランドとしての「良心教育」の基礎となるものであり、私が本日あえて「『同志社の』国際主義」をテーマにお話したのであります。同志社の国際主義教育は、単に国際交流を盛んにするだけでなく、一国の良心、「地の塩、世の光」として、世界の表舞台で羽ばたくことのできる人材の養成を特色としている点に、留意していただきたいのであります。そのためには、学生が、もっと主体的に外国語の習得に取り組む体制の整備が必要であるように思います。その意味で同志社の国際主義教育は、ようやくその緒に就いたところと評することができます。